

令和八年度 岩手県立高等看護学院 入学試験

国語問題用紙 (その1)

□ 次の各問に答えなさい。

問1 次の①～⑤の四字熟語の傍線部の漢字は間違っています。正しい漢字を書きなさい。(各2点)

- ① 一期二得(一生に一度の出会い)
- ② 温古知新(古いことから新しい知識を得る)
- ③ 大綱晩成(大物は遅れて成功する)
- ④ 意心伝心(言葉にしなくても気持ちに通じる)
- ⑤ 大願成受(大きな願いが叶う)

問2 文法に関する次の文の①～⑤に適切な語句を書きなさい。(各2点)

「読む」や「話す」のような五段活用の未然形に「〜することができる」という意味の助動詞「れる」が付いた「読まれる」「話される」が変化して、「読める」「話せる」という形になったものを①動詞と言います。

これは、五段活用以外の動詞から作ることができます。
たとえば「着る」は②活用、食べる」は③活用、「来る」は④活用の動詞なので、この動詞は存在しません。

これらを「〜できる」という意味にするためには、助動詞の「られる」を付け、「着られる」「見られる」「来られる」とします。しかし、近年、「着れる」「食べれる」「来れる」という言い方をすることがよくあります。

これらの言い方は、本来あるべき「ら」が抜けているので、⑤言葉とよばれ、正しい使い方ではありません。

問3 節句とは、季節の節目を祝い、古くからの日本の文化です。邪気を払い健康や幸福を祈るための風習として中国から伝わりましたが、日本独自の文化と融合して「五節句」として根づきました。

次の①～⑤は、何の節句と呼ばれていますか。それぞれ□に漢字で書きなさい。(各2点)

- ① 一月七日 □の節句
- ② 春の野草や野菜の入ったお粥を食べて、一年の無病息災を祈る日。
- ③ 三月三日 □の節句
- ④ 雛人形が飾られちらし寿司などを食べて、女の子の健やかな成長を祝う日。
- ⑤ 五月五日 □の節句
- ⑥ 鯉のぼりや武者人形が飾られ、柏餅などを食べ、男の子の健康と成長を願う日。
- ⑦ 七月七日 □の節句
- ⑧ 織姫と彦星の再会を祝い、竹に短冊を吊るし願い事をする日。
- ⑨ 九月九日 □の節句
- ⑩ 「九」が重り不吉なので、菊を飾り無病息災や子孫繁栄を願う日。

国語問題用紙 (その2)

□ 次の文章をよく読んで後の問いに答えなさい。

《登場人物》

この問題は、著作権の関係により公開できません。

この問題は、著作権の関係により公開できません。

この問題は、著作権の関係により公開できません。

⑤ 「藍を継ぐ海」(伊与原新)による

問1 傍線①「どうか」の後に続く沙月の祈りを、次の□に合うように

に、句読点も含めて、二十字以内で書きなさい。(5点)

どうか、□という祈り。

問2 傍線②「ウミガメとおんなじやね」という言葉にはどんな意味が込められてい

ますか。次のうちから最も適当なものを一つ選び記号で書きなさい。(5点)

- ア 人間もウミガメと同様に美しい海で生まれると海が好きになるということ。
- イ 人間にもウミガメも美しい自然のものでしか生きて行けないということ。
- ウ 人間もウミガメも遺伝子に刻まれた遠い記憶が故郷に帰すということ。
- エ 人間もウミガメと同様に海を渡り落ち着ける場所に流れ着くということ。

問3 傍線③「熱いもの」とはどんなものですか。次のうちから最も適当なものを

一つ選び記号で書きなさい。(5点)

- ア 怯むことなく次々と海の中へ突っ込んでいく子ガメたちの勇気への感動
- イ 姫ヶ浦の自然が失われることの悲しみとそれを守りたいという強い決意
- ウ 何事にも臆病だった自分だが未来に向かって生きて行こうとする勇気と希望
- エ 果たして海岸の美しさが戻りウミガメが帰ってくるのだろうかという不安

問4 傍線④「今度は返事があるような気がした」と思ったのはなぜですか。次の

中から最も適当なものを選び記号で書きなさい。(5点)

- ア 姉の生き方を受け入れた優しい思いは、姉にも伝わると思ったから。
- イ 孵化を成功させた自分の頑張りを、姉が認めてくれると思ったから。
- ウ 人はどこにいてもつながって、姉ともつながっていると思ったから。
- エ 美しい月の光は姉にも届き、姉も故郷を懐かしんでいると思ったから。

問5 傍線⑤「藍を継ぐ海」について

(1) 「藍」とは何の色を象徴していますか。本文中から二文字の語句を抜き出して書きなさい。(5点)

(2) 作者がこの作品で描きたかったテーマはどんなことだと考えられますか。次のうちから最も適当なものを一つ選び記号で書きなさい。(5点)

- ア 自然の営みは、どんな時代でも人間が支え続けなければならないという普遍の原理。
- イ 困難や生きづらさを抱えていても、未来に向けて生命をつないで行かなければならないという信念。
- ウ 自然や人間の営みは過去から未来へ受け継がれていくもので、科学によっては変えられないという真理。
- エ どの土地にも人々が受け継いできたものがあって、それを必死で守ろうとしている姿の尊さ。

(3) この作品は、二〇二四年に同名の短編集として発刊され、大衆性を重視した長編小説や短編集を対象とした権威ある文学賞を受賞しています。

菊池寛が創設した文学賞の名称を次の□に合うように漢字で書きなさい。(5点)

□賞

国語問題用紙（その5）

㊦ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

㊧㊨は小段落の番号です。

この問題は、著作権の関係により公開できません。

